

トビウオ通信 (H24 第2号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成23年(2011年)の島根県漁業の動向》

県の漁獲統計システムにより集計した県下漁業協同組合の漁獲統計資料(属人)などから、平成23年(1~12月)の島根県漁業の動向を取りまとめました(海面漁業・漁船漁業のみ)。

全体 … 漁獲量は前年比127%、生産額は前年比113%

平成23年の島根県(属人)の総漁獲量は15万3千トン(前年比128%)、総生産額は200億円(前年比98%)でした(表1、図1、2)。前年(平成22年)と比べると、総漁獲量で3万2千トンの増加、総生産額で23億2千万円の増加となりました。これはまき網漁業による漁獲量の増加が大きく寄与しています。特にマイワシの豊漁によるところが大きいですが、マアジ以外の漁況が好調であったこと、マアジは単価が堅調に推移し総生産額が前年を上回ったことも一因となっています。

漁業種類別で詳しくみると本県の基幹漁業であるまき網漁業(生産額ベースで全体の40%)、沖合底びき網漁業2そうびき(同12%)、小型底びき網漁業1種(同10%)は1隻(船団)あたりの漁獲量、生産額ともに前年並み~前年を上回る状況でした。沿岸漁業では定置網(同11%)とイカ釣り(同5%)は前年並みの漁況でしたが、釣り・延縄(5%)は前年を下回る漁況でした。(詳細については後述します。)魚種別でみると(図3)、漁獲量の上位5魚種はマアジ(3万2千トン)、マイワシ(2万9千トン)、サバ類(2万2千トン)、ウルメイワシ(1万8千トン)、カタクチイワシ(1万6千トン)で、久しぶりにマイワシの豊漁に恵まれました。これらのうちマイワシ(漁獲量の前年比695%)、ウルメイワシ(同268%)、カタクチイワシ(同114%)、サバ類(同111%)は前年を上回る漁況でしたが、マアジ(同81%)は前年を下回りました。

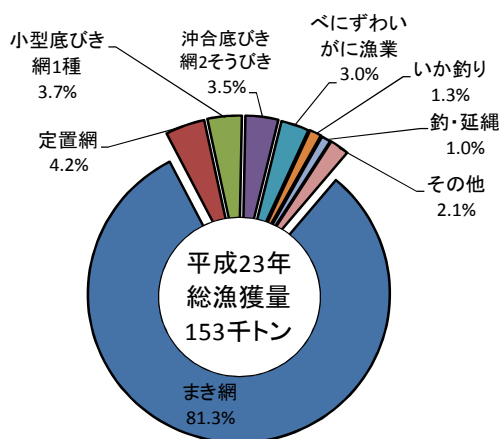


図1 平成23年の島根県の総漁獲量の漁業種類別内訳

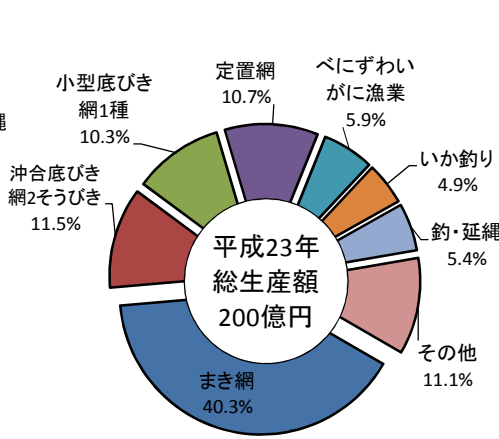


図2 平成23年の島根県の総生産額の漁業種類別内訳

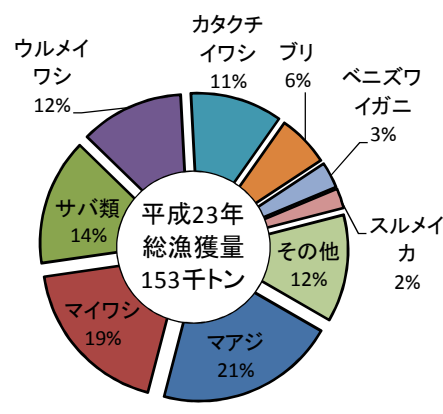


図3 平成23年の島根県の総漁獲量の魚種別内訳

＜文中の語句説明＞

- ☞ 平成23年の漁獲量・生産額は県下全地区、全経営体を対象に集計していますが、前年比は一部地区(松江市、湖陵、多岐、温泉津、江津、知夫)と一部経営体(実質的に県外を根拠にしているまき網船団と沖合底びき網漁船)を除いた数値で比較しています。
- ☞ 「前年」は平成22年の数値、「前年」は過去5年(平成18年~22年)、沖合底びき網漁業のみ過去10年(平成13年~22年)の平均値を指します。
- ☞ 前年との比較は、前年比110%以上は「前年を上回る」、前年比90~110%は「前年並み」、前年比90%以下は「前年を下回る」としています。

まき網漁業 …… 中型まき網 1 船団あたりの漁獲量・生産額はともに平年を上回る

本県の基幹漁業の一つである「まき網漁業」には中型まき網や大中型まき網などがあります。これらは主にマアジ、サバ類、イワシ類などの浮魚（うきうお）を漁獲対象としています。

まき網漁業全体の平成 23 年の漁獲量は 12 万 5 千トンで島根県全体の 8 割を、生産額は 80 億 5 千万円で 4 割を占めました。このうち大半を占める中型まき網の漁獲量は 10 万 1 千トン（平年比 143%）、生産額は 60 億 8 千万円（平年比 115%）でした（図 4）。ただ、中型まき網の船団数は集計対象期間である平成 17 年以降は 15 船団から 12 船団に減っており全体量・金額では単純に比較できないため、1 船団あたりでみると漁獲量（平年比 150%）、生産額（同 121%）とも平年を上回りました。

魚種別では、近年主力のマアジは、春漁が不調であった一方で秋漁は平年並みに推移し、漁獲量は平年を下回る 2 万 2 千トン（平年比 81%）でした。一方、イワシ類は好漁に恵まれ、マイワシが 1 歳魚（H22 年生まれ）を主体に久しぶりの豊漁に沸き、漁獲量は 2 万 5 千トン（同 746%）、カタクチイワシは 3～4 月にまとまって 1 万 4 千トン（同 121%）、ウルメイワシは 10～11 月にまとまって 1 万 6 千トン（同 273%）でした。また、サバ類は 1～3 月及び主漁期となる秋以降の漁況が上向き、漁獲量は 1 万 6 千トン（同 114%）でした。マアジ以外は、平年並み～平年を上回り、全体的に良好な漁況の一年となりました。

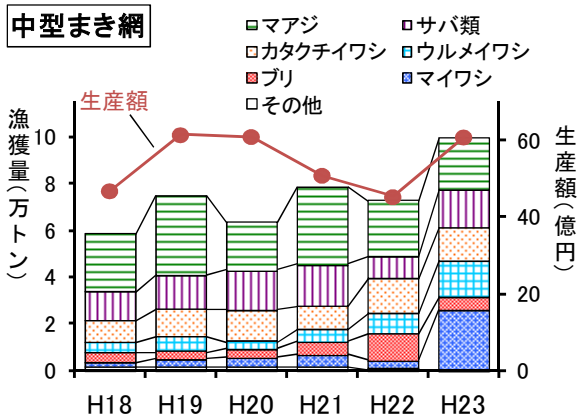


図 4 中型まき網による魚種別漁獲量および生産額の推移

沖合底びき網漁業 …… 1 船団あたりの漁獲量は平年を上回る、生産額は平年並み

沖合底びき網漁業（2 そう曳き）は 2 隻の漁船で網を曳き、カレイ類、アンコウ、アカムツ（ノドグロ）など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象としています。平成 23 年の漁獲量は 5 千 4 百トン（平年比 98%）、生産額は 23 億円（同 88%）でした（図 5）。本漁業の船団数は集計対象期間である平成 13 年以降で 12 船団から 8 船団に減りました。同じ条件で比較するため 1 船団あたりでみると漁獲量は 654 トン（平年比 115%）で平年を上回り、生産額は 2 億 8 千万円（同 104%）で平年並みでした。最近 5 年間の動向（図 6）をみると、量・金額とも横ばい傾向にあるといえます。

魚種別の動向では、アナゴ・ハモ類（平年比 133%）、ケ

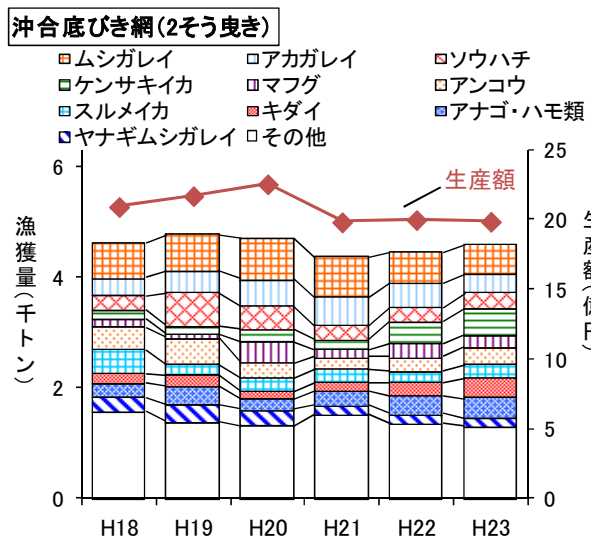


図 5 沖合底びき網漁業（2 そう曳き）による魚種別漁獲量および生産額の推移（一部経営体を除く）

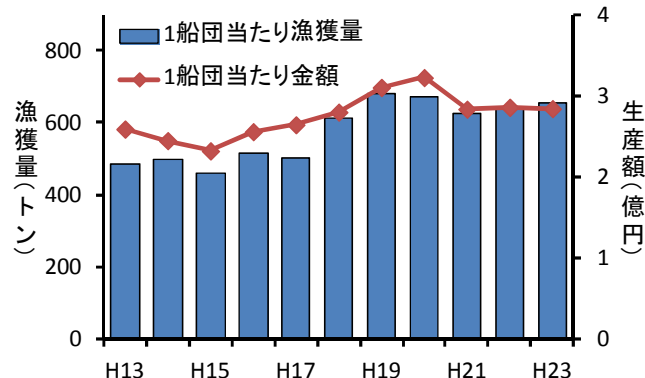


図 6 沖合底びき網（2 そう曳き）1 船団あたりの漁獲量・生産額の推移

ンサキイカ（同 171%）、キダイ（同 151%）、マフグ（同 217%）は平年を上回りました。特にケンサキイカは秋漁が好調で、平成 10 年以降で最高値（漁獲量 487 トン）を記録しました。また、アンコウ（同 96%）、アカガレイ（同 100%）は平年並み、スルメイカ（同 87%）、ヤナギムシガレイ（同 54%）、ソウハチ（84%）ムシガレイ（同 81%）は平年を下回りました。

小型底びき網漁業 1種 …… 1隻あたりの漁獲量・生産額ともに平年並み

小型底びき網漁業1種は、1隻の漁船で「かけまわし」と呼ばれる方法で操業し、カレイ類、ニギス、タイ類など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象とします。平成23年の漁獲量は5千6百トン（平年比97%）で、生産額は20億6千万円（平年比93%）でした（図7）。本漁業の操業隻数は廃業により減少傾向にあり、平成18年以降で57隻から52隻まで減りました。同じ条件で比較するため1隻あたりで見ると漁獲量は108トン（平年比104%）で、生産額は3千9百万円（同101%）で、ともに平年並みとなりました。

魚種別の動向では、アナゴ・ハモ類（平年比130%）、マダラ（同226%）、ケンサキイカ（同224%）、ヒレグロ（同156%）、ソウハチ（同113%）

が平年を上回りました。特にケンサキイカは沖合底曳き網漁業（2そう曳き）と同様に秋漁が好調で、平成10年以降で最高値（漁獲量394トン）となりました。また、アカムツ（同85%）、ムシガレイ（同72%）、キダイ（同74%）、アンコウ（同67%）、ニギス（同63%）は平年を下回りました。なお、今年は操業に支障をきたす大型クラゲの来遊がほとんどなく、これと一緒に来遊するイボダイ（同4%）の漁獲は少なかったようです。

小型底びき網1種

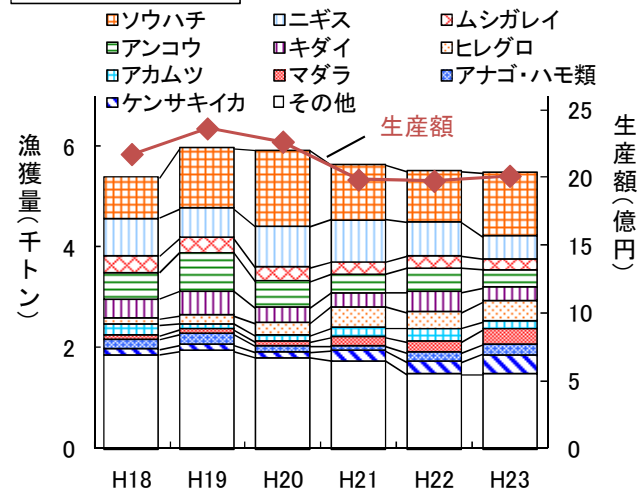


図7 小型底びき網漁業1種による魚種別漁獲量および生産額の推移（一部地区を除く）

定置網漁業 …… 漁獲量・生産額ともに平年並み

定置網漁業（大型定置網・小型定置網・底建網）は魚類の通り道に網を張り、網に入り込んだものを漁獲する漁法で、マアジ、ブリ、サバ類、スルメイカなどが漁獲対象となります。平成23年の漁獲量は6千5百トン（平年比105%）、生産額は21億3千万円（同98%）で、ともに平年並みでした（図8）。また、定置網漁業の全漁獲量の約8割を占める大型定置網の1ヶ統あたりの漁獲量（同100%）、生産額（96%）をみても、ともに平年並みでした。

地区別の漁獲動向をみると、出雲地区では主力のブリが平年を下回り（平年比55%）ましたが、マアジ、サワラ類が平年並み、スルメイカが平年を上回ったため総漁獲量は平年並みに留まりました（同96%）。

石見地区でもブリが不調（同58%）でしたが、マアジ、サバ類、ケンサキイカ、サワラ類が平年を上回る漁況であったため、総漁獲量は平年を上回りました（同119%）。

隠岐地区でもブリが不調（同84%）でしたが、主力のマアジ、スルメイカ、サバ類が平年を上回る漁況であったため、総漁獲量は平年を上回りました（同122%）。

定置網

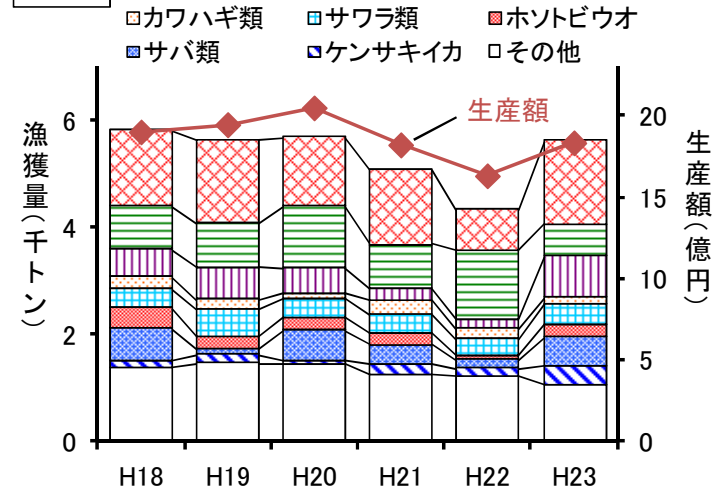


図8 定置網漁業による魚種別漁獲量および生産額の推移（一部地区を除く）

釣り・延縄 …… 漁獲量・生産額ともに平年を下回る

釣り・延縄は、海況や季節に応じて様々な仕掛けを駆使して魚を釣り上げる漁業です。

平成23年の漁獲量は1千5百トン（平年比83%）、生産額は10億9千万円（同84%）で、ともに平年を下回りました（図9）。本漁業の漁獲量は比較的安定していますが、生産額は減少傾向にあります。

地区別の漁獲動向をみると、出雲地区では主力は何と云ってもブリですが、平成23年の漁獲量は351トンで全体量の58%を占めました。主力のブリは平年比92%と平年並みでしたが、次に主力のアマダイ、サワラ類などが平年を下回ったため総漁獲量は平年を下回りました（同83%）。

石見地区ではメダイ、ブリ、サワラ類、アマダイ、クロマグロ（ヨコワ）が主な漁獲対象です。平成23年は、メダイは平年を上回りましたが、ブリ、サワラ類、アマダイ、クロマグロ（ヨコワ）が不調で平年を下回る漁況となり、総漁獲量は平年を下回りました（同81%）。

隠岐地区ではメダイ、カサゴ・メバル類、ブリ、マダイ、キダイ、クロマグロ（ヨコワ）が主な漁獲対象です。平成23年は、メダイ、クロマグロ（ヨコワ）、マダイは平年を上回りましたが、カサゴ・メバル類、キダイ、ブリの不調が大きく響き総漁獲量は平年を下回りました（同87%）。

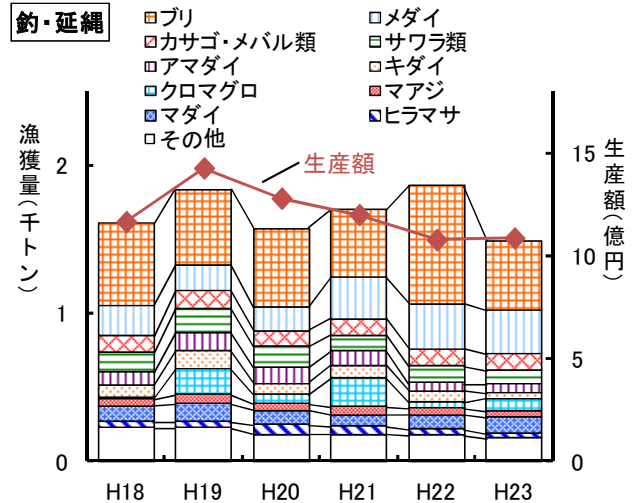


図9 釣り・延縄による魚種別漁獲量および生産額の推移（一部地区を除く）

イカ釣り …… スルメイカは不調、ケンサキイカは好調

イカ釣り漁業は名前の示すとおりスルメイカやケンサキイカなどのイカ類が漁獲対象で、本県では夜に集魚灯（漁火）によりイカを集める夜釣りが主流です。また、漁船の総トン数により「イカ釣り5トン未満」「小型イカ釣り（5トン以上30トン未満）」「中型イカ釣り（30トン以上185トン未満）」に区別されます。

平成23年の漁獲量は1千9百トン（平年比92%）、生産額は9億7千万円（同91%）で、ともに平年並みでした（図10）。魚種別でみると、スルメイカの漁獲量（637トン）は平年比51%で平年を下回りました。近年スルメイカの回遊経路が沖合寄りとなる傾向が強くなり、平成20年以降、山陰沖でのスルメイカ漁の不振が続いています。

一方、ケンサキイカは秋漁が好調に推移し、漁獲量は1,263トンで平年を上回りました（平年比167%）。ケンサキイカは平成18年以降、春～夏に獲れる大型のケンサキイカ型は減少傾向にありますが、秋に獲れる小ぶりのブドウイカ型は増加傾向にあり、スルメイカ漁の不振を穴埋めする役割となっています。

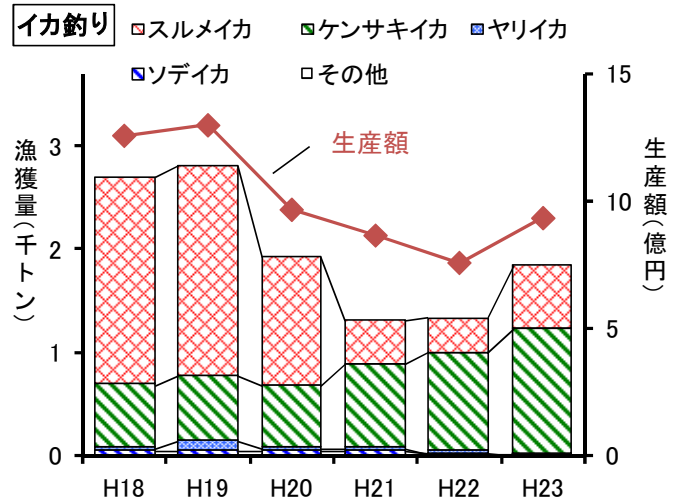


図10 イカ釣りによる魚種別漁獲量および生産額の推移（一部地区を除く）

※ 各漁業の概要やトビウオ通信バックナンバーについては島根県水産技術センターのホームページをご覧ください。（<http://www2.pref.shimane.lg.jp/suigi/>）

表1 平成23年の県内主要漁業の海区別漁獲量・生産額

漁業種類	海区	漁獲量※			生産金額※			1ヶ統あたり漁獲量※			1ヶ統あたり生産金額※		
		量(トン)	平年比	前年比	金額(百万円)	平年比	前年比	量(トン)	平年比	漁模様	金額(百万円)	平年比	漁模様
すべての漁船漁業	全県	153,284	128%	127%	19,988	98%	113%	—	—	—	—	—	—
中型まき網	石見	6,621	102%	106%	908	104%	128%	1,967	112%	◎	255	116%	◎
	隠岐	94,333	148%	142%	5,168	117%	136%	11,792	148%	◎	646	117%	◎
小型底びき網1種	石見	5,092	97%	100%	1,827	94%	102%	110	105%	○	39	102%	○
沖合底びき網2そう曳き	出雲・石見	5,365	98%	104%	2,299	88%	102%	654	115%	◎	284	104%	○
定置網 ※※	出雲	3,815	96%	124%	1,419	95%	110%	248	99%	○	91	98%	○
	石見	1,185	119%	155%	329	103%	143%	163	103%	○	44	96%	○
	隠岐	1,464	122%	129%	386	105%	105%	319	103%	○	89	92%	○
釣り・延縄	出雲	648	83%	79%	393	78%	96%	—	—	—	—	—	—
	石見	537	81%	73%	382	79%	94%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	302	87%	87%	310	103%	104%	—	—	—	—	—	—
イカ釣り	出雲	990	90%	133%	514	89%	121%	—	—	—	—	—	—
	石見	418	138%	147%	235	105%	130%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	515	75%	143%	222	83%	121%	—	—	—	—	—	—

※ 漁獲量・生産額は県内全漁協・全経営体が対象。平年比・前年比は一部地区(松江市・湖陵・多伎・温泉津・江津・知夫)と実質的に県外を根拠にしている一部の沖合底びき網漁船を除いたJFしまね主要支所および海士町漁協の数値を元に算出。

平年比: 過去5年(H18~H22年)の平均値との比較、沖合底びき網2そう曳きのみ過去10年(H13~22年) 漁模様: ◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

※※1ヶ統あたり漁獲量・生産金額は平成23年現在操業中の大型定置のみを対象に算出。